

海部会発 合同部会・公開講座の検討

1. 合同部会の検討について

◆背景と目的◆

今年度の海部会の活動目標のひとつとして、「河川の治水事業や干潟造成事業など土砂に関わる具体的な事業を通して土砂問題の認識を深めるとともに、他部会との情報共有および意見交換を行う」という目標を掲げている。

そこで、掘削土砂の活用事例を視察することを目的として、河床掘削場所（鵜の首）と干潟造成場所（三河湾沿岸）を見学し、川部会および海部会合同での意見交換を実施する。

◆開催場所および日時◆

開催場所は、豊田市の鵜の首頭首工および西尾市の干潟・浅場造成地区である（地図を参照）。

開催日時は未定だが、工事実施日等に合わせて、日程を調整する。

項目	内容	備考
開催場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鵜の首：河床掘削場所の見学 ・ 西尾市沿岸：干潟造成場所の見学 	
開催予定日時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未定 	<input type="checkbox"/> 河口に土砂を入れる時期と、河床掘削中の時期に合わせる。

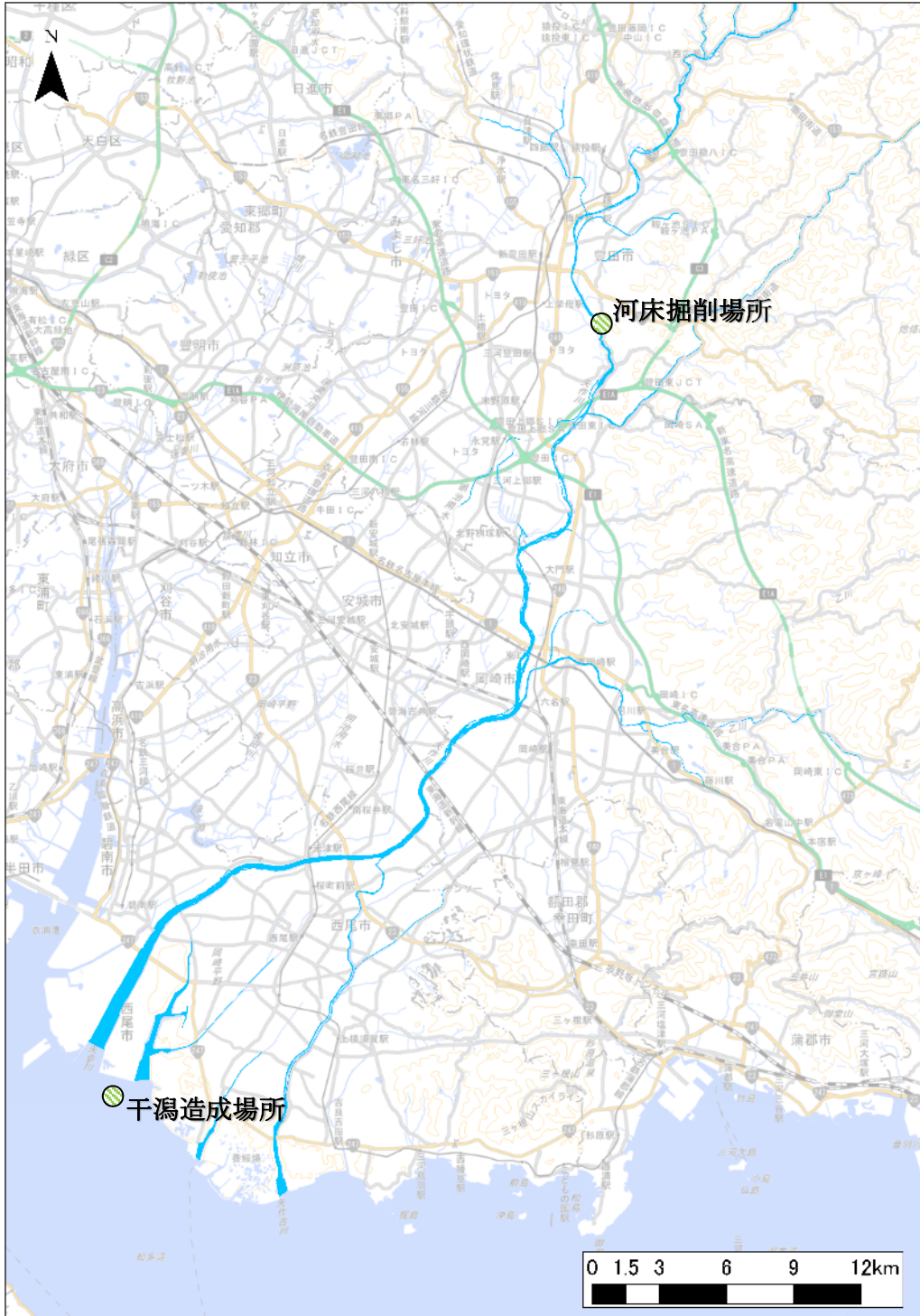


図 見学予定箇所

洪水対策 矢作川「鵜の首」の掘削砂



鵜の首では浚渫船に重機を乗せて川底の砂を掘削。昨年度は11月～3月中旬に行われていた

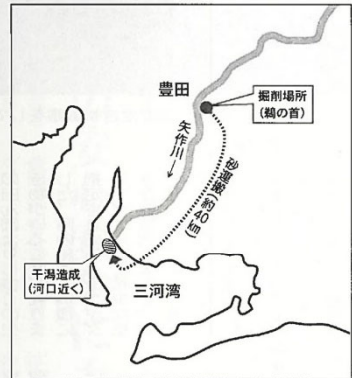
三河湾 アサリ育む 干潟を造成

豊田市街地を流れる矢作川の「鵜の首」で掘削された川底の砂が三河湾へ運ばれ、アサリを育む干潟の造成に有効活用されている。国土交通省と愛知県が連携して令和2年度から始めた取り組みだ。
【地域記者 有我都・新見克也】

「鵜の首」開削は 豊田都心の悲願

鵜の首は矢作川の流れる岩盤の山にあたる蛇行し川幅が狭く、大洪水時に狭い部で水深が増え、ここがボトルネックとなっており、上流に比べて下流の水位が上がり、氾濫の危険がある。これを開削して広くする治水対策工事は豊田都心にとって長年の悲願とされてきたが、治水対策工事は下流から順に進めてくるルールがあるためなかなか事業化されなかった。国土交通省が鵜の首の治水

対策に着手したのは令和2年度。近年、局地的な集中豪雨による河川の氾濫が全国で激甚化・頻発化しており、長野県の千曲川で狭い部が原因の氾濫が起きたこともあって着手が早まった。鵜の首の治水対策工事は二本立てで行われる。まず「川底の開削」から始めており、今後、岩盤の山を削って川幅を約2倍(100m×100m)に広げる計画だ。先ま



掘削場所は「鵜の首」(矢作川)の狭い部。干潟造成(河口近く) 三河湾

掘削工事は冬の低水期に行われ、令和3年度は11月～3月中旬に行われていた。ICT技術で川底の高い部分(浅い部分)を探りながら浚渫船に載せた重機で掘削。10トンのタンク3600台分の砂を三河湾近くの仮置き場へ運搬した。今夏、これを愛知県が矢作川河口沖

家庭料理に欠かせない味噌。この地には「八丁味噌」と呼ばれる豆味噌があります。大豆と塩、水というシンプルな

味噌カツ

がれ

津宏子

に水を少しずつ加えて練り、好むの滑らかさします。キャベツは細かい千切りで水に放してパリッと。豚肉に塩胡椒をして、小麦粉、卵液、パン粉の

- 2枚、キャベツ
- 適量、大肉
- 適量、醤油
- 適量、酒
- 適量、小麦粉
- 適量、卵液
- 適量、パン粉

令和2年度から三河湾へ運ばれている砂は川底の掘削工事でも出たもので、国土交通省が受入れ先を探っていたところ愛知県が三河湾の干潟造成用に引き取りを希望、うまくマッチングした。



鵜の首の掘削工事では、投棄タイヤ等のゴミも驚くほどたくさん引き上げられた

へ運んで干潟を造成する予定だ。令和2年度の掘削砂では既に1・78ヘクタールの干潟が造成され、「とても良い砂」と漁業関係者に好評だ。中流域で掘削した砂は三河湾の砂よりも粒が大きくて不揃いなので隙間が多く、アサリが潜り込みやすいという。また、その隙間が干潟の水質浄化機能をより高めるそうだ。愛知県の担当者「もともと三河湾の干潟は矢作川が運んでくる砂がもたらした財産。鵜の首で掘削した砂は最適な干潟の造成材になりま

粒の大きな中流砂が好適

三河湾はアサリの水揚げ全国一位を誇るが、2019年の漁獲量は10年前に比べ2割程度(3080トン)にまで激減している。その原因は川からの栄養分不足によるアサリの成長不足や、アサリの餌減少や、海底に溜まった硫酸の海水が風で沿岸に押し寄せ、「毒潮」の影響、害菌生物の発生など複合的とみられている。愛知県は流域下水道処理を緩める(栄養分を増やす)、試験運転や干潟の造成などの対策を進めており、干潟の造成面積は今後も増やしていく考えだ。もともと矢作川は砂の川として有名だが、ダム群によって上流から流れてくる砂が減り、その結果として三河湾の干潟が瘦せてしまった。今回、砂を運搬して干潟を造成しているのはその穴埋めだが、そうした理屈は抜きで、豊田都心の治水対策が三河湾の生きものを育む干潟の復活につながるのはいまひとつ。山と川と海を一体のものとしてみる「流域意識」が広がってきかけになっている。